

白 い ま ど'

AUGUST

8

特集 早期からの積極的な治療で怖くない！ 関節リウマチ P-2

こんな症状はありませんか？

朝起きたとき、
関節がこわばる…

発熱が
続いている

関節の腫れ・
痛みが続いている



- お役立ち情報 シリーズ「がん」① がんってなあに？ P-6
- 情報カード 治験ってなあに？／市民健康セミナーのお知らせ P-8
- 外来紹介 「妊娠前相談外来」を始めました P-9

病院理念

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ



社会福祉法人聖隷福祉事業団

総合
病院

聖隷浜松病院

『早期からの積極的な治療で怖くない!』

関節リウマチ

みなさんは、関節リウマチと聞いてどんなイメージが浮かびますか？

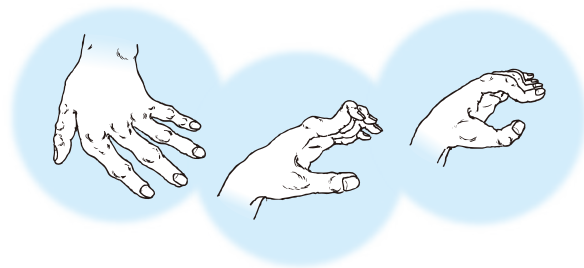
「お年寄りに多い病気」「発病してしまったら、この先ずっと痛みに耐えなければいけない」「徐々に変形が進み、動けなくなってしまう」…そんなイメージを持っていますか？

関節リウマチは30～50歳代の働き盛りの年代の発病が約7割ともっとも多く、20歳代の発病も決して稀ではありません。現在日本には、100万人程度の患者さんがいると言われていますが、診断を受けていない方も含めると実際はそれ以上と推定されています。



関節リウマチの症状

関節リウマチの症状や進行の程度は人によってさまざまです。手足をはじめ、全身の関節が腫れて痛んだり、特に手指がこわばる「朝のこわばり」が起こったりします。進行すると骨が壊され、変形してしまいます。また関節以外に皮膚、肺などの全身症状を伴う場合もあります。関節リウマチによる関節症状が原因で命にかかわることはありませんが、生活する上での活動を制限されている人はとても多いとされています。



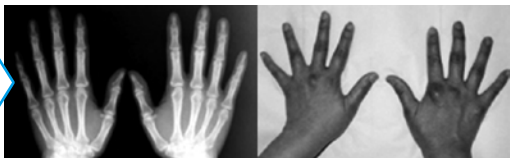
誤解されがち…リウマチの昔と今

以前は「発病してしまったらこの先ずっと痛みに耐え、徐々に動けなくなってしまう」と、例えば次ページの写真のように進行していくというイメージを持つ方が多くいました。

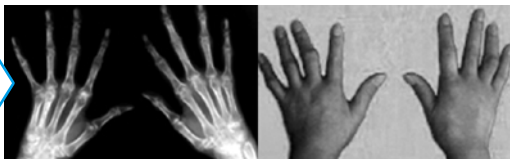
しかし現在では原因は不明ながらも、病気が進行するメカニズムについてはかなりわかってきており、新しい抗リウマチ薬の登場や治療の進歩によって、病気の進行を完全に停止させ、さらには何十年たっても何不自由ない生活を営むことも可能になっています。この状態を「治療ゴール」といいます。

関節リウマチの以前(昔)の経過

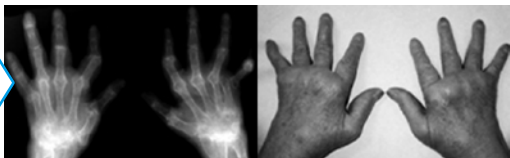
早期
(3年未満)



進行期
(3~10年)



晩期
(10年以上)



今はここがちがう!

早期に治療開始できれば病気の進行を完全に停止させることも可能!

「完全な治療ゴール」を目指して

「治療ゴール」に到達するには、重要なキーワードが2つあります。

①早期診断・早期治療

リウマチは一般的に発症早期ほど骨が壊れるのが速く、また発症早期ほど治療の効果が出やすいことがわかっています。壊れた骨は、再び治すことはできません。そのため骨が壊れる前で、かつ治療の効果が出やすいできるだけ早い時期に治療を開始することが非常に重要です。

②ゴールを見据えた十分な治療

治療開始後それなりに生活できるレベルに回復したことで満足している状態は「治療ゴール」に達したとは言えず、骨の破壊は進行してしまいます。患者さんひとりひとりに合わせた治療ゴールを見据え、十分な治療をしていくことが必要です。

当院での治療

当院では、医師・リウマチ専任看護師が中心となり、チームとして診療を行っています。

実際の診断に関しては、問診、身体所見(圧痛、腫れの確認)、採血、レントゲンに加え、場合により関節超音波検査、関節MRI検査なども行っています。そしてなるべく早期に治療を開始し、生物学的製剤を含む抗リウマチ薬の服用による最新の治療方針を常に考え、ひとりひとりに合った「治療ゴール」を目指しながら十分な治療を行うよう努めています。

リウマチは決して特別な稀な病気ではありません。たった一つの関節でも痛みや腫れが数ヶ月持続するようであれば、膠原病リウマチ内科にご相談ください。当科はいつでも受診可能です。

がんの基礎知識について医師・看護師・事務員それぞれの立場から3回シリーズでお伝えします。

シリーズ「がん」①

「がんってなあに？」

「がん」に対して、どういう印象をお持ちですか？病気に良いものはないのですが、「悪い病気」と言えば、多くの方ははじめに「がん」と思われるのではないのでしょうか。厳密には異なるのですが、悪性腫瘍と呼ばれることもあります。今回はがんの一般的なことをご紹介します。

がんの治療

がんは無秩序に増大し、他臓器に転移することもあります。進行すると、生命に関わることとなります。治療法は、手術・抗がん剤・放射線などがあり、それらを組み合わせで行います。早期がんの場合には治癒することもあります。が、進行がんでは根治は難しいのが現状です。しかし近年は各種治療法の進歩に伴い、以前と比較して飛躍的に

予後が改善しているものもあります。早期・進行期に関わらず生命を意識せざるを得ない疾患であるために、治療していくうえでは、患者さんと医療者との信頼関係が重要となります。

早期発見が重要

日本人の死因の第一位はがんによるものです。少し大げさかもしれませんが、老若男女問わず誰でもがんになる可能性があります。言うまでもなく早期発見が最も重要ですので、検診などのがんを発見する機会にもう一度目を向けていただき、異常を指摘された際には、当院の各診療科に遠慮なくご相談ください。

■2014年に新たにがんと診断される人の数(予測)

男性		女性	
部位	罹患数※	部位	罹患数
胃	90,600	乳房	86,700
肺	90,300	大腸	55,300
前立腺	75,400	胃	40,100

※病気にかかる人数

(国立がん研究センター公表)

NEXT

シリーズ「がん」②では、がんの治療法・がんを専門とする看護師等についてご紹介します。(10月号に掲載予定)

文責:呼吸器内科 三木 良浩

治験ってなあに？

治験とは、国が承認する前の「新しくすりの候補」の有効性（効果があるか）や安全性（副作用の問題はないか）を調べる臨床試験のことです。当院では、よりよくすりを早く患者さんにお届けするため治験を推進しています。

現在以下の治験の募集を行っています。

募集中の治験

※2014年7月1日現在

診療科	疾患名(症状)
膠原病リウマチ内科	関節リウマチ
てんかんセンター	部分発作
神経内科	アルツハイマー型認知症
皮膚科	帯状疱疹
緩和医療科	医療用麻薬使用に伴う便秘症

- 治験では参加基準や参加予定患者数があり、参加基準に合わなかったり募集期間内であっても予定人数に達した場合は治験に参加いただけないことがあります。
- 健康な方向けの治験は募集していません。

お問い合わせ窓口

☎ 053-474-1264 (臨床研究管理センター直通)
月～金曜日9:00～17:00

聖隷浜松病院 募集中の治験

検索

第45回 聖隷浜松病院 病院学会 公開企画

市民健康セミナー

日時 9月21日(日) 13:30～ 会場 えんてつホール

主なプログラム

＊特別講演：消化器がんの最新診断・治療

＊ふれあいフェスタなど ※詳細は9月号でお伝えします！

無料
どなたでも
ご参加
いただけます！



担当

部長
村越 毅
むらこし たけし

▼出身地/新潟県
▼出身校/新潟大学(1988年卒)
▼趣味/旅行、料理、語学、楽器演奏

産科・周産期科



「妊娠前相談外来」を始めました

妊娠出産は病気ではありません。そのため、大部分の妊婦さんは大きな問題なく経過し無事出産となります。しかし、中には妊娠中に妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病などの合併症が出てきたり、分娩時に出血が多くなったり、急に帝王切開となったり、赤ちゃんに病気が見つかったりすることも少なくありません。また、自分自身の年齢や合併症などで妊娠に対して不安を抱えていたり、前回の妊娠が大変だったので次の妊娠出産が無事行えるか心配になったりすることはよくあることです。

そこで当院総合周産期母子医療センターでは、このような妊娠に対する悩みや相談に対して、専門医が妊娠前からアドバイスを行うための「妊娠前相談外来」を開設しました。必要に応じて遺伝相談外来や各専門外来と共同でサポートします。妊娠に対して不安や悩みのある方は一度ご相談ください。

※「妊娠前相談外来」は完全予約制です。まずはお電話でご相談ください。
産科外来直通 053-474-3067 (月～金 15:00～16:30)



聖隷浜松病院からのお知らせ

新任医師紹介



総合診療内科

わたひき もと

綿引 基

弘前大学（2002年卒）

※7月1日着任

■ 紹介状をお持ちください

紹介状及び予約が必要な診療科（紹介・予約制）がありますので、事前にご確認ください。なお、当院を受診される際に、他の医療機関からの紹介状をお持ちで無い場合は、初診時選定療養費として**3,240円**を別途ご負担いただいております。

当院では、基幹病院と地域の「かかりつけ医」（医院、診療所等）が役割を分担し、連携しながら適切な医療を提供する「地域医療連携」を推進しています。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

■ 初診時は医療機関からの事前予約にご協力をお願いいたします

予約時には、症状や診療科の確認等が必要となることがあります。原則として医療機関からご予約をお取りいただくようお願いいたします。

やむを得ず患者さんから予約する場合は診療科・担当医をご確認のうえ、下記までご連絡ください。患者さんの待ち時間軽減のためにもご協力をお願いいたします。

地域医療連絡室（JUNC） ☎ 053-474-8801

（月～金曜 9:00～17:00・土曜 9:00～12:00／祝祭日を除く）

■ 再診（診察・検査等）予約変更のご案内

予約変更は、適切な診療提供に支障をきたすおそれがありますのでお控えください。やむを得ず予約変更を希望する場合のみ、下記までご連絡をお願いいたします。

変更の際は医師等に確認が必要なため、お時間や日数がかかりますことをご了承ください。

外来受付センター ☎ 053-474-0100（月～金曜14:00～16:45）

- お手元に診察券・予約券等をご準備のうえ、お電話いただけますようお願いいたします。
- 時間帯によってはお電話が繋がりにくい場合がございますのでご了承ください。

■ 面会について

- 面会時間…（月～土曜）14:00～20:00、（日曜・祝日）10:00～20:00
- 産科・小児科病棟の面会者は1階総合受付で手続きのうえ、面会者札の着用をお願いいたします。

お詫びと訂正

白いまだ7月号において下記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。7ページ 梅だれの材料に、「しょうゆ…大さじ2」の記載が抜けておりました。



社会福祉法人聖隷福祉事業団

総合病院 聖隷浜松病院

ジョイント・コミッション・インターナショナル認証
日本医療機能評価機構認定
地域医療支援病院

〒430-8558 浜松市中区住吉2-12-12 ☎ 053-474-2222
発行責任者 病院長 鳥居 裕一